

# 令和2年度 地方自治体と 連携した避難訓練 (内閣府・熊本県益城町)

## 実施報告書 (概要版)

### 熊本県益城町について

益城町は、熊本県の中央北寄りに位置している。阿蘇くまもと空港や九州自動車道益城熊本空港インターチェンジを有するため、交通の便がよい場所である。また、熊本市に隣接し、熊本市のベッドタウンとして発展してきた。

平成28年4月に発生した熊本地震において、益城町は、短期間に2度も震度7を観測し、町内のほとんどの住宅が被害を受ける等甚大なものであった。

今回対象の広安小学校区では、熊本地震の際に避難所を運営した地域住民たちが、自主防災クラブを結成し、防災活動を行っている。



地図出典：国土地理院

## 訓練概要

- 訓練想定：広安小学校区自主防災クラブでは、結成以降、防災訓練や地区防災計画の勉強会等の活動を行っている。自主防災クラブには、30～40代から地区長を務める高齢の方まで在籍しているが、災害時の連絡体制・活動体制が不十分なことが課題として挙がっていた。そのため、今回は、災害時の活動や他機関との連携について整理し、体制の整備、地区防災計画の作成の足掛かりになるワークショップを実施する。
- 実施地区：広安小学校区
- 主催：益城町、内閣府
- 参加者：広安小学校区自主防災クラブ、学校関係者（第2回）
- 参加者数：約30名
- 内容：（令和3年）

|     | 日時             | 内容   |
|-----|----------------|--|
| 第1回 | 1月25日（月）14～16時 | ○防災訓練の説明<br>○熊本地震時の行動等の振り返り                        |
| 第2回 | 2月21日（日）9～12時  | ○これまでの自主防災クラブ活動の振り返りと地区防災計画事例の紹介<br>○災害時のタイムラインの検討 |
| 第3回 | 3月28日（日）10～12時 | ○第2回WSタイムラインのまとめ<br>○今後の取り組みについての意見交換              |

## 訓練の評価

ワークショップは、自主防災クラブのメンバーや学校関係者が約30名程度が参加し、終始熱心かつ真剣な態度で取り組んでいた。全3回のワークショップ実施後アンケートを実施し、結果等を分析し今後の防災活動の参考となる「得られた成果と対策案」を整理した。

### 【得られた成果】

- 災害時の行動や他機関との連携を時系列に整理することで、どこと連絡を取る必要があるのか、またその連絡体制があるのか確認することができた。
- 災害時の情報伝達の課題を共有しながら訓練の具体的な内容を検討し、次の訓練への意欲を高めることができた。

### 【今後の対策案】

- 今回は感染症対策のため中止した住民が参加した避難訓練を実施するために自主防災クラブが主体となって動くことが望まれる。また、地区と自主防災クラブの連携づくりを進めていくことが望まれる。
- 自主防災クラブは、まだ結成して数年しかたっておらず、今後、メンバーが増えたり、入れ替わったりしても継続的に活動していけるように体制を整備することが望まれる。

## 訓練内容

### 令和3年1月25日 第1回ワークショップ

益城町役場を会場として、アドバイザーに熊本大学の竹内准教授を迎え、災害時の対応を考えるため、参加者で熊本地震を振り返り、避難の際には近隣住民へ声掛けを行ったこと、安否確認、連絡体制が不明瞭であったことなど、そのとき取った行動や困ったことについて話し合い、その後行っている対策などを挙げ、課題の抽出を行った。

▼竹内准教授によるワークショップ



### 令和3年2月21日 第2回ワークショップ

広安小学校を会場として、今までの自主防災クラブの活動内容を振り返り、固定電話での連絡体制では不十分であることが課題に挙がり、SNS(メッセージアプリ)を用いた連絡手段を確立するため、他自治体の先行事例を交えながら情報伝達ツールの紹介を行った。

また、各グループにわかれて、令和2年の風水害の時の対応を振り返り、災害時に自分はどう動いたのか、また今後、自主防災クラブとしてどう動くのがよいか意見を出し合い、災害時の対応をタイムラインを用いて整理し検討を行った。

活発な意見交換が行われ、避難所開設の仕方を理解することや、連絡体制の整備、日頃からの繋がりが重要だという意見等が挙げられた。ワークショップ終了時には、メッセージアプリでの連絡先の交換が行われた。

▼グループでの話し合いの様子



▼各グループの発表の様子

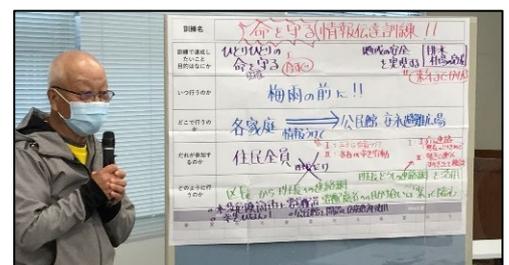


### 令和3年3月28日 第3回ワークショップ

益城町役場を会場として、第2回ワークショップで検討した災害時対応タイムラインについてとりまとめを行い、今後の自主防災組織の取り組みについてグループに分かれて意見交換を行った。

また来年以降に向けた訓練内容の検討では、避難ルートの確認や情報伝達訓練、避難所開設訓練の必要性について多くの意見が挙げられた。

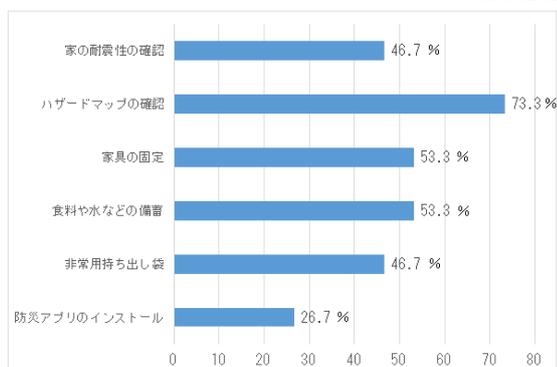
▼各グループの発表の様子



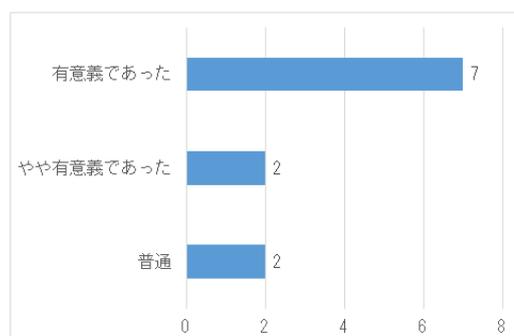
## アンケート結果

参加した町民に、防災意識や防災の取組状況等を把握するため、アンケート調査を実施した。

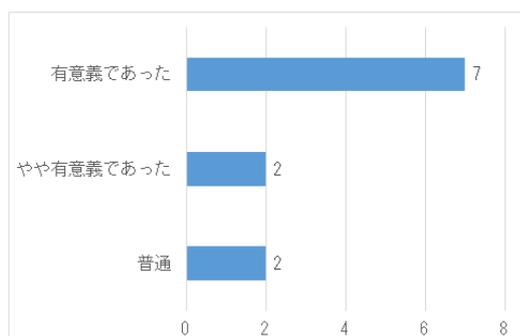
日頃からの防災への取り組みで実施しているものはありますか。  
(n=15・複数回答)



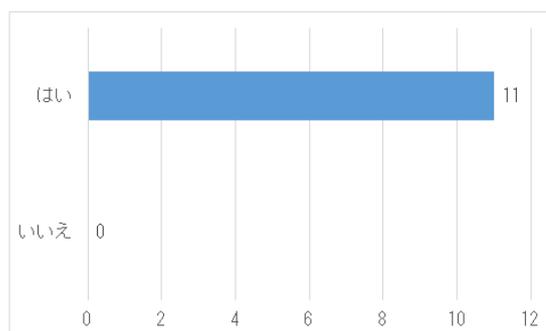
災害が発生時の近隣での助け合いの方法を決めていますか。  
(n=14)



今回の災害時対応タイムラインの作成は有意義でしたか。  
(n=11)



今後も地域の防災活動について積極的に行っていきたいですか。  
(n=11)



### 【自由意見】

- 参加している人たちは地域の防災について積極的に考えていることがわかった。
- 地区ごとにさまざまな異なる課題があることがわかった。
- なにより地域のコミュニティー作りが最重要と考える。
- 学校、役場、自主防、各地区とそれぞれの情報伝達方法と連絡網確立が必要である。
- 多くの住民が参加できるよう定期的な訓練の実施が必要である。